

令和2年度 徳島県立城東高等学校 学校評価 総括評価表

1 人権教育の充実

教育目標	評価指標（活動計画）		評価		次年度への課題と今後の改善方針	
	評価指標		評価指標による達成度	評定		総合評価
①人権尊重を柱にすえた教育活動を推進する。 ②自他を大切にすする心や態度を育成する。	① 人権に配慮した教育活動ができていると回答した割合（目標） 90%以上 ② 人権教育が、人権意識向上に役立っていると回答した生徒の割合（目標）90%以上		① 生徒 88.5% 保護者 90.0% 教員 94.8% ② 生徒 88.1%	B B	(評定) B	生徒・教職員ともに多忙感が強く、ゆっくり落ち着いて、人権問題を自分のこととして深く考えにくい状況にある。今年度の蓄積ができたので、それを生かして、来年度の活動を前進させたい。
	① 「人権週間」年3回以上実施する。 ・「人権講演会」など年1回以上実施する。 ・「校内意見発表会」年1回以上実施する。 ・「人権ミニフェス」（昼休み啓発）年3回以上実施する。 ・「人権新聞」年3回以上実施する。 ② 「人権問題ホームルーム活動」年4回（3年は3回）実施する。 ・「人権職員研修会」年3回実施する。	活動計画の実施状況	① ・人権週間2回、人権月間1回を各学期に実施した。 ・「人権講演会」11月、実施した。（講師：せやろがいおじさん） ・「校内意見発表会」11月、放送により実施した。 ・「人権ミニフェス」11月、1回実施した。 ・「人権新聞」8号発行した（特別号も含む）。 ② 「人権問題ホームルーム活動」年4回（3年は3回）実施した。 ・「人権職員研修会」年4回実施した。	(所見) コロナ禍の中、県の人権教育の県研究指定を受けて、回数に制限があったが、内容の充実をはかりつつ、柔軟に対応した。すべてのクラスで指導案に基づいて実践し、真剣に人権教育推進に取り組むなど、内容において人権教育を活性化することができた。主体性をそれぞれの立場で発揮して、活動に積極的に関わり、自身の人権意識を更新する生徒の姿が見られた。	学校関係者の意見 確かな人権教育観を持った指導者の充実が大切であると考えます。新型コロナウイルス感染症に関して身近なところで人権について考える1年でした。社会の少数派の立場を理解できるよう人権教育でご配慮いただきたい。	

2 学習指導の充実

重点目標	評価指標（と活動計画）		評価		次年度への課題と今後の改善方針	
	評価指標		評価指標による達成度	評定		総合評価
①主体的に学習に取り組む態度の育成を図る。 ②学習指導要領の改定の趣旨を踏まえた教育課程を編成する。	① 生徒の学習時間（1日あたり）3時間を超える生徒の割合 70%以上 ② 令和3年度、令和4年度の教育課程を編成する。		① 生徒の割合 72.3% ② 新学習指導要領の趣旨を踏まえた令和3、4年度入学生用、令和3、4、5年度全学年用の教育課程を編成した。	A B	(評定) A	生徒の学習時間については、3時間を超える生徒の割合が昨年度より5%あがり、7割以上と高い水準を維持できている。今後の学習形態のあり方も踏まえて、学習支援クラウドサービスの活用を主体的な学習への一方策としていきたいところだが、IT機器の操作が苦手な生徒もおり、まだまだ生徒全体に浸透しているとはいえない。この経験も生かしつつ、生徒が主体的に学習に取り組む態度を育てられるような様々な方策を検討していきたい。
	① ・家庭学習時間調査を毎日実施する。 ・月ごとに学習計画を立てるように習慣づける。（家庭学習時間調査表の有効的活用） ・学習支援クラウドサービスを有効的に活用し、主体的に学ぶ力を身につけさせる。 ② 新学習指導要領の改訂方針について研究し、令和4年度入学生の教育課程を策定する。スムーズに新教育課程に移行できるように令和3年度教育課程を編成する。	活動計画の実施状況	① ・家庭学習時間調査を毎日実施した。 ・全ての教科とはいかないまでも、新型コロナウイルス感染症対応休校中には学習支援クラウドサービスにより、授業配信、課題の送付などを実施した。また学校再開後も、一部教科では週末課題の配信、Webテストなど	(所見) 生徒の学習時間については目標を達成している。家庭学習時間調査は生活記録表に毎日担任がコメントを書いて生徒に返し、コミュニケーションをとることで生徒の学習意欲向上につながっている。クラウドサービスの活用については、前向きに取り組んでいく教員	学校関係者の意見 学習の定着が進んでおり、評価は高いと考えます。ICT機器やクラウド	

		<p>で積極的に活用した。</p> <p>② 新学習指導要領について、教育課程検討委員会、各教科会で検討を重ね、新要領の趣旨に沿った令和4年度入学生教育課程を編成し、その移行となる週35時間を導入した令和3年度入学生教育課程を編成した。</p>	<p>が増えてきた。</p> <p>新教育課程となる令和4年度を見据え、大学入学共通テストの動向等教育内容を充実に注力したい。</p>	<p>サービスを活用した学習指導の充実を今後も願います。その際、情報セキュリティの基礎知識の学習やリテラシーの向上にも取り組んで欲しいと思います。</p>
--	--	--	---	---

3 進路指導の充実

重点目標	評価指標（と活動計画）		評価		次年度への課題と今後の改善方策
	評価指標		評価指標による達成度	評定	
<p>①生徒一人一人の勤労観・職業観の育成を図るとともに、夢や目標を明確にさせる。</p> <p>②生徒一人一人の学力や適性、興味・関心に応じたきめ細かな指導を充実させる。</p>	<p>① 城東ゼミ（補習）の有用度 80%以上</p> <p>② ・東京大、京都大 合格者数 10名以上 ・医学部医学科 合格者数 10名以上 ・難関10大学 合格者数 40名以上 ・国公立大学合格者数 200名以上 ・校外模試偏差値70以上 40名以上 偏差値60以上 130名以上</p>	<p>① 生徒 74.5% 保護者 87.0%</p> <p>②</p> <p>・東京大、京都大 3名 ・医学部医学科 7名 ・難関10大学 24名 ・国公立大学合格者数204名 (R3.3.16現在) ・70以上 1年 37名 2年 36名 60以上 1年133名 2年121名 (10/31実施進研模試3教科)</p>	B	(評定) B	<p>校外模試で偏差値60以上の生徒が減少していることから、学習内容の一層の定着が必要であると考え。今年度後半より導入された、教育クラウドの活用であったり、進路検討会の活用方法を考えたい。</p> <p>新しい大学入学者選抜に備え、基礎学力の定着、思考力・判断力・表現力の育成に加えて、主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度の育成が必要である。そのためにも引き続き、課題研究や、校外の研修、資格・検定の取得に積極的に参加する姿勢を身につけさせたい。</p>
	活動計画	活動計画の実施状況	(所見)	学校関係者の意見	
	<p>①-1 徳島大学等の体験授業や物理チャレンジなど各種コンテストへの参加を推奨する。</p> <p>①-2 補習を3年生38講座、2年生38講座、1年生21講座開講し、多様な教育ニーズに応える。</p> <p>② ・進路検討会を第3学年で年4回実施する。 ・難関大希望者対象模試を各学年2回以上実施する。 ・模試分析会を第1,2学年で3回実施する。 ・学力テストの講評を全学年で延べ11回配布する。</p>	<p>①-1徳島大学体験授業1名、数学オリンピック予選5名、地理オリンピック予選3名、県施設へのインターシップ2名、科学の甲子園3チーム(18名)、東京大学教養学部金曜講座7回(延べ19人)参加</p> <p>①-2毎週41講座(3年)41講座(2年)、21講座(1年)を開講した。</p> <p>② ・進路検討会を3年で4回実施した。 ・難関大希望者対象模試各学年で2回実施した。 ・模試分析会を各学年で2回実施した。 ・学力テストの講評を全学年では延べ8回配布した。</p>	<p>城東ゼミの有用度は昨年度より若干向上した。しかしながら、校外模試偏差値で60以上の生徒数が減少している。現2年生は偏差値60が1年時より30名減となっている。休校の影響により、演習等が不十分な状況であることが考えられる。今年度はコロナウイルス感染症のための休校期間があり、学力テストや校外模試の実施回数が減少した。</p>	<p>国公立大学合格者数は素晴らしい結果だと思います。特に総合型・学校推薦型の合格者の増加は、生徒及び先生方の入試に対する取組の成果だと感じております。目先の勉強だけでなく、生徒が高校で様々な体験や経験ができるよう引き続き計画していただき、これからも徳島県の高校を牽引して欲しいと思います。</p>	

4 生徒指導の充実

重点目標	評価指標（と活動計画）		評価			次年度への課題と今後の改善方策
	評価指標		評価指標による達成度	評定	総合評価	
<p>①社会の一員としての正しいルール・マナーを習得させ、基本的な生活習慣の確立を図る。</p> <p>②良好な対人関係を構築できる社会性を育み、いじめを未然に防止する態勢を整える。</p>	<p>①-1 服装・頭髪が守れている割合 90%以上</p> <p>①-2 挨拶が身につけている割合 85%以上</p> <p>①-3 ルール・マナーを守っている割合 85%以上</p> <p>② いじめを未然に防止するための積極的な取組（面接・アンケート 3回）</p>	<p>①-1 生徒93.9%</p> <p>①-2 生徒81.9%</p> <p>①-3 生徒93.4%</p> <p>② アンケート 2回（9月・2月）</p>	<p>A</p> <p>B</p> <p>A</p> <p>B</p>	<p>(評定)</p> <p>B</p>	<p>生活委員や部活動生徒による交通マナーアップ・挨拶運動等の継続。朝夕の挨拶だけでなく、休み時間等の挨拶も自然に行えるよう、教員からも働きかける。</p> <p>警察と連携しての交通マナーアップ運動を行う。</p> <p>携帯電話・スマートフォン利用の決まりを守らせ、講演会も継続して行いたい。</p> <p>生徒総会で、生徒から要望のあった服装やスマートフォンの利用については、全校生徒に周知し、ルールを守らせたい。</p>	
	<p>活動計画</p> <p>①-1 各学年での服装・頭髪指導を充実させる。（年3回）</p> <p>①-2 生活委員による挨拶運動、駐輪場のマナーアップ運動を各学期それぞれ1回実施する。</p> <p>①-3 交通マナーアップ運動、携帯電話・スマートフォン講演会などを通じて、全校生徒に社会のルールを守ることやマナー指導を行う。</p> <p>② クラス分析会を定期的に行い、生徒の状況等について情報交換を行う。アンケートを活用し、生徒の状況把握をする。重要な対策等が必要なときは、いじめ防止等対策委員会を開き協議を行う。</p>	<p>活動計画の実施状況</p> <p>①-1 各クラスで担任・副担任で行った。（年2回）</p> <p>①-2 各学期に生活委員が駐輪場のマナーアップ運動を行った。</p> <p>①-3 携帯電話・スマートフォンの利用についての講演会を行った。（9月）</p> <p>② 学年毎にクラス分析会を行い、生徒の情報共有が行われた。いじめ防止対策委員会は、該当する案件がなかった。</p>	<p>(所見)</p> <p>服装・頭髪についての達成度は、生徒・職員とも90%を越えた。全体を見ても大きく違反している生徒は見られなかった。</p> <p>挨拶については、生徒・職員ともに目標に達しなかった。</p> <p>新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、警察と連携してのマナーアップ運動はできなかった。</p> <p>携帯電話・スマートフォンの利用については、生活の改善が見られた。</p> <p>学校生活についてのアンケートを、9月・2月に行った。面接週間等を利用して担任とのコミュニケーションがとれるようにした。</p>	<p>学校関係者の意見</p> <p>スマートフォンの適切な使用、挨拶の励行やルールを守り、マナーを身につけるといった規範意識の向上につながる活動の実施等に引き続きご尽力いただきたい。いじめを未然に防ぐ取組については、教育相談や人権教育などと包括した取組を実施して欲しい。交通マナーアップ活動等を通して交通事故防止にも努めて欲しいと思います。</p>		

5 特別活動の推進

重点目標	評価指標（と活動計画）	評価			次年度への課題と今後の改善方針
		評価指標による達成度	評定	総合評価	
① ホームルーム活動・生徒会活動を活性化させ、自主性や実践的な態度を育成する。 ② 部活動を充実させる。	評価指標 ① 生徒会活動が活発である割合 90%以上 ② 部活動の充実度 75%以上	評価指標による達成度 ① 91.2% ② 79.3%	B B	(評定) B	新型コロナウイルスの終息がなかなか見通せない状況を踏まえ、継続して感染対策に細心の注意を払いながら、球技大会、城東祭、予餞会等の行事や朝の挨拶運動、部活動をさらに充実したものにしていきたい。 学校関係者の意見 コロナ禍の中で活動が難しかったと思いますが、創意工夫され、成果を上げており素晴らしい。生徒の主体的な活動が生徒の満足度の向上につながるため自主性を尊重する方針を続けて欲しいと思います。
	活動計画 ① ・生徒会活動や学校行事への積極的参加を促す。 ・朝の挨拶運動を始め、生徒会による学校の活性化を図る。 ② ・部活動と学習面との両立を図る。 ・短時間で効率のよい活動を心がけ、各々の目標の達成を目指す。	活動計画の実施状況 ① ・本年度も生徒会が主体的に学校祭や球技大会の運営を行った。 ・朝の挨拶運動、予餞会の為のビデオ制作を生徒会で行った。 ② ・8時完全下校の遵守、定期考査期間の部活動自粛等メリハリの効いた活動を心がけた。	(所見) 本年度はコロナ禍の影響による様々な制約の下、感染対策に細心の注意を払って生徒会諸活動を行った。 部活動の充実度を向上させる為にも短時間集中型の練習を行い、学習時間を充分確保できるよう努めた。		

6 健康教育の推進

重点目標	評価指標（と活動計画）	評価			次年度への課題と今後の改善方針
		評価指標による達成度	評定	総合評価	
① 正しい食生活等の健康増進についての指導を行い、心身の調和的発達の促進を図る。 ② 一人一人に応じた特別支援教育の推進を図る。 ③ 教育相談活動の一層の充実を図る。	評価指標 ① 「保健だより」の発行回数 12回以上 ・保健室の生徒への応急処置や心の悩み等への対応の良好の割合 80%以上 ② 特別支援教育に関する職員研修会に対するアンケートの満足度 90%以上 ③ 親身になって生徒の悩みや相談に応じてくれる割合 85%以上	評価指標による達成度 ① ・14回 ・88.4% ② ・100.0% ③ ・88.3%	B B A B	(評定) B	新型コロナ対応による長期の休校は生徒の心身に様々な影響を与えている。スクールカウンセラーが配置されていることで、支援を必要とする生徒に対応できる環境があるが、利用数が急増しており、適切な時期に十分な時間をかけることができない状況がある。改善に向けて、創意工夫が必要である。 学校関係者の意見 指標を上回る達成となっています。コロナ禍の不安定な社会情勢の中、カウンセラーの利用も増えていますが、将来に不安を感じている生徒に心を配
	活動計画 ① ・保健委員会での生徒の自主的活動を推進する。 ・文化祭での展示等により、健康増進への啓発を図る。 ・各教科・各課と連携し、食育啓発を図る。 ・「保健だより」を12回以上発行し、健康増進について興味・関心を深める。 ② ・特別支援教育に関する職員研修会を1学期、2学期にそれぞれ1回実施する。 ・各学年会を利用して、気になる生徒についての情報交換を定期的に行い、心身や生活面、学業などについて悩みや問題を抱えている生徒を早期に見出し、支援	活動計画の実施状況 ① ・保健委員は、手洗い石けん液、アルコール消毒液の点検・補充を定期的に行い、感染症予防ポスターの作成など感染症予防活動を行った。 ・文化祭では「withコロナ時代を生きる」、「学校の事故防止について」の展示を行った。 ・「保健だより」は14回発行し、保健委員会コーナーを設け保健委員がテーマを考え、記事を作成した。 ② ・校内研修会を1学期、2学期に	(所見) 保健委員は当番制で定期的に活動し、文化祭の展示など積極的に参加できた。 保健室の対応としては、新型コロナ対応のため相談室を第二保健室として機能させ、感染症対策に取り組んだ。 スクールカウンセラーに定期的に教育相談を行っていただき、専門的な力を必要とする生徒や保護者に支援できた。担任との連携で、早期の対応ができたケース		

	を行う。 ③・カウンセラーや専門機関と連携した教育相談活動を充実する。	それぞれ1回実施した。 ・学年会での情報交換に加えて保健室やスクールカウンセラーとの連携により、生徒への早期の対応支援を行った。 ③・教育相談の利用状況は、開設日が24日で、延べ利用数が1年：30回、2年：11回、3年66回、教員：8回である。	も多い。 教員の校内研修ではコロナ対応による長期休校の生徒の心理的な影響を取り上げていただいた。生徒の実態に応じた内容であり、高い満足度を得ることができた。	り、これまでと同様に相談体制の充実をお願いします。
--	--	--	---	---------------------------

7 環境教育・安全教育的推進

重点目標	評価指標（と活動計画）	評価			次年度への課題と今後の改善方針
	評価指標	評価指標による達成度	評価	総合評価	
①環境問題への意識高揚と環境学習の推進を図る。 ②校内外の環境美化活動を推進する。 ③防災教育を推進し、災害時の実践力を育成する。	① 環境美化活動に積極的に取り組んでいる割合 80%以上 ② ・清掃活動に熱心に取り組む、美しい環境を保つよう心掛けている割合 80%以上 ・環境委員による清掃奉仕活動（放課後）の実施回数 5回以上 ③-1 防災訓練の実施回数 2回 ③-2 心肺蘇生法の技術を習得する	① 生徒86.6% ② 生徒87.9% 環境委員による清掃奉仕活動を12月までに5回実施、3学期に2回実施 ③-110月に火災を想定した訓練、12月に地震津波停電を想定した訓練を実施 ③-2教職員を対象にした講習会を7月に実施	A A B B	（評定） A A	アンケート結果では「環境美化」「清掃活動」ともに9割前後が取組に達成感を持っている。引き続き清掃への意識向上に取り組みたい。 今年も各地で異常気象による災害が起きた。地震だけでなく河川の氾濫や豪雨災害への対策などあらゆる防災への備えを、できることから地道に行っていく必要がある。 防災クラブは、コロナ禍で活動を制限されることが多かったが、校内防災研修に参加したり、防災士取得試験を受験したりして、継続した活動を行った。 今後も時間や機会を確保し、活動していきたい。
	活動計画	活動計画の実施状況	（所見）		学校関係者の意見
	① ・節電・節水を呼びかける。 ・環境問題に関する記事を掲示する。 ② ・毎日の清掃を徹底する。 ・環境委員による校内や学校周辺の清掃奉仕活動を5回以上実施する。 ③-1 防災訓練の実施においては、避難経路及び関係職員の役割の確認を行う。 ③-2 職員・生徒への心肺蘇生法の講習会をそれぞれ1回以上実施する。 ③-3 「防災クラブ」の活動を推進する。	① ・環境委員が各クラスで節電・節水を呼びかけた。 ・環境問題に関する新聞記事や校内の電気と水道の使用量に関するデータをグラフ化して掲示した。 ② ・環境委員が各クラスで呼びかけた。 ・環境委員や学年による清掃奉仕活動を12月までに5回、3学期には2回実施。計7回行った。 ③-1避難訓練を2回、初動対応訓練を2回行った。 ③-2職員対象に1回実施した。生徒対象講習会は、コロナの影響により中止。 ③-2生徒が防災活動や防災に関する	生徒対象のアンケートでは、「環境美化」「清掃活動」ともに約9割が取組に達成感を持っている。引き続き清掃への意識向上に取り組むたい。 清掃奉仕活動は、天候不良で中止の回もあったが機会を設け定期的に行った。 避難訓練は基本的避難行動の再確認として行った。火災避難訓練では昨年度より早く避難完了することができた。地震津波停電訓練は初めての試みであり、今回生じた課題点を今後の活動に生かしていきたい。 防災クラブは、文化祭での「防災展」、生徒対象防		環境美化活動の評価が高いのはそれだけ生徒の学校に対する思いが高いためだと思います。社会に出てもその習慣は必要ですので継続して欲しいです。また、防災教育は自分を守るために必要な活動ですので積極的な取組をお願いします。

		啓発活動を行った。また、今年度も2名が防災士取得試験を受験した(内1名合格)。	災研修の主催、避難訓練の準備や補助など地道な活動を行った。また高校生防災クラブ交流イベントへの参加や、防災士の資格取得にも積極的に挑戦して成果を上げた。
--	--	---	--

8 主権者教育・消費者教育の推進

重点目標	評価指標(と活動計画)		評価		次年度への課題と今後の改善方策
	評価指標	評価指標による達成度	評定	総合評価	
①政治や選挙への関心を高め、有権者として必要な政治的素養の育成を図る。 ②消費者被害等の危機を自ら回避できる能力を育成する。 ③持続可能な社会の実現に寄与する消費生活を実践できる能力を育成する。	① 政治や選挙に関心の高い生徒の割合 90%以上 ② 「契約トラブルと消費者保護制度について理解できた」と回答した生徒の割合 80%以上 ③ 「持続可能な社会のあり方について考え、実際に行動に移すことができた」と回答した生徒の割合 80%以上	① 1年「現代社会」アンケート 政治に関心の高い生徒71.5% 選挙に関心の高い生徒67.4% 選挙に参加する生徒94.3% 3年「政治経済」アンケート 新聞を読む習慣のない生徒の割合が94.4%だったが、新聞発表によって61.1%の生徒に習慣ができた。 ②③1年「家庭総合」においてアンケート実施。 契約トラブルと消費者保護制度について理解できた98% 持続可能な社会の在り方について考え行動に移すことができた90%	B	(評定) B	公民科の授業においては、社会の現実から考えさせる授業を展開するため、新聞を読んだり、意見発表する場を増やしていきたい。 家庭科の授業で、様々な場面において生活者の視点から、自らが取り組むことができる事柄を考え実行させたい。
	① 公民科の授業をとおり、選挙制度について十分に理解を深め、主権者としてなすべき課題を見つけさせる。 ② 「社会への扉」等を使用し、「消費者の権利と責任」を自覚して行動できるよう、契約の重要性や消費者保護の仕組みについて理解する。 ③ 「エシカル消費」に関する広報活動を行い、持続可能な社会の実現のための実践力を身につける。	① 「現代社会」の授業で総務省・文部科学省より配布された全国共通教材を使用して主権者としてあるべき姿を考えさせた。「政治経済」の授業で受講者全員に新聞を使った発表をさせた。 ② 「家庭基礎」の授業で徳島県教育委員会より配布された「社会への扉」を使用し、契約の重要性、消費者の保護と責任について考えさせる予定。 ③ 総合的な学習・探究の時間においてSDGsの内容について研究活動を行い、家庭クラブや外語部が行うエシカルクラブの活動にも協力した。	(所見) 国政選挙における徳島県の投票率は全国最下位である。この結果を踏まえ、若い力が社会を牽引していきけるように主権者教育を推進していきたい。 成人年齢が18歳に引き下げられることにより高校生が消費者トラブルに巻き込まれる危険性が高くなること懸念されている。契約、消費者の責任について継続して伝達していく必要がある。	学校関係者の意見 政治不信が問われている中、主体的・協働的な学びの中で、生徒からの発信により大人に働きかけができると子供たちの意識向上につながります。主権者教育が社会人として大切な学びであることに気付いて欲しいです。消費者教育は今後さらに重要になってきます。徳島県はエシカル消費の先進県であるので継続して取り組んで欲しいと思います。	

9 読書活動の推進

具体的目標	評価指標（と活動計画）		評価		次年度への課題と今後の改善方策
	評価指標	評価指標による達成度	評定	総合評価	
①生徒の望ましい読書習慣の形成を図る。	①-1 読書活動に学校として積極的に取り組んでいる割合 70%以上 ①-2 生徒一人あたりの年間図書貸出数 (2020.1～2020.12) 5.5冊以上	①-1 生徒 67.7% 保護者 84.8% 教職員 93.1% ①-2 5.5冊	B B	(評定) B	生徒の視野が広がるよう「ライブラリーニュース」で多様なジャンルの本を紹介し、ホームページで広報することができた。一方、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、従来の読書会の開催形態の見直しが必要となっている。ICTを効果的に使い、校内の安全を図るだけでなく、校外との交流なども視野にあり方を検討したい。
	①-1・読書週間やビブリオバトルを1・2学期に実施する。 ・学校ホームページに図書館情報を掲載する。 ・「ライブラリーニュース」を毎月発行する。 ①-2 読書会を1・2学期に実施する。	①-1 1学期にビブリオバトル (7/13)、2学期に読書週間(11/16～20)を実施した。ライブラリーニュースを毎月発行し、図書関係の行事とともに学校ホームページに掲載した。 ①-2 読書会を1回実施した。	(所見) 読書活動に関するアンケートは、保護者・教職員の数値が5ポイント以上上がったが、生徒の数値が目標を達成できなかった。一人あたりの貸出冊数は1冊増えた。読書会や読書週間など行事として定着し、教科学習の中でも図書館の利用が進められている。		

10 グローバル人材の育成

教育目標	評価指標（と活動計画）		評価		次年度への課題と今後の改善方策
	評価指標	評価指標による達成度	評定	総合評価	
①国際社会の中で主体的に生きる能力や課題を解決する力の育成を図る。	①・国際交流・国際理解教育に積極的に取り組んでいる割合 90%以上 ・テレビ会議を通じて国際交流をする機会 10回以上 ・SDGsについてのポスター展示や、研究集録をとりまとめる。	①・生徒 79.0% 保護者 82.7% 教員 94.8% ・国際交流の機会 10回 ・1・2年生全員がSDGsについての課題研究に取り組んでいる。その成果は、課題研究発表会や研究集録にまとめることになっている。	B B B	(評定) B	広報活動に力を入れ、どんな状況であっても多様な形で国際交流ができるように努めたい。 学校関係者の意見 国際交流はICTを活用し、コロナ禍の中でできる限りの取組ができています。一部の生徒だけでなく多くの生徒に興味を持って欲しいです。国際交流に特化したコースを設定してはどうでしょうか。SDGsもクエストでうまく取り入れて活動できています。
	①・テレビ会議を活用し、海外の生徒や帰国した留学生との交流を10回以上行う。 ・テレビ会議ではテーマを決めて活発な議論ができるように指導する。 ・できるだけ多くの生徒が参加できるように広報に努める。 ・SDGsを達成するための課題研究を行う。	① 姉妹校と4回、帰国した留学生と1回、ASEAN日本政府代表部と1回、県内在住インドネシア人留学生と1回、オードリー・タン氏のシンポジウムの視聴1回、ALTの友人との交流2回	(所見) 参加したのは、希望者を中心に、限られた生徒であったので、学校全体で国際交流をしているという実感が持てなかったようだ。課題研究については、全員がタブレットを活用した学習成果も上がっている。		

11 開かれた学校づくりの推進

重点目標	評価指標（と活動計画）		評価			次年度への課題と今後の改善方策
	評価指標		評価指標による達成度	評定	総合評価	
①教育活動の積極的な公開を推進する。 ②ホームページ等を利用した積極的な情報発信を推進する。 ③PTA、同窓会、地域社会との連携を図る。	① 公開授業を実施する。 ② ホームページが学校の情報を得たり、学校の活動を理解するのに役立っている割合（利用の保護者対象） 85%以上 ③-1地域住民、PTA及び同窓会関係者を委員とする学校支援協議会の開催回数 2回 ③-2 中学生及びその保護者を対象とした学校説明会の開催回数 2回	① 公開授業を3回実施。 ② 77.6%（昨年68.9%） ③-1 2回 ③-2 2回	B B B B	(評定) B	新型コロナウイルス感染症の収束が見えない中ではあるが、来年度より全県一区の普通科高校として、本校の教育を理解してもらおう上で、体験入学や公開授業を実施し、情報提供を図り、本校に対する理解を深めてもらう方策を考える必要がある。 ホームページについては、更新回数やタイミングをより適切に行い、より役に立つ内容となるよう改善に努める。 保護者への情報提供については、学習支援サービスをより効率的に運用する必要がある。	
	①・休日の授業公開日を2回実施する。 ・中学校、大学、学校評議員、保護者等への広報を充実させる。 ② ホームページを見やすく、使いやすいものになるよう改善に努めるとともに、内容の更新をできるだけ速やかに行う。 ③-1学校支援協議会を年2回（6月、3月）開催する。 ③-2学校説明会を休日に複数回実施し、中学生や保護者が参加しやすいようにする。また、中学校への案内や広報の方法を工夫し、参加者を増やす。	①・10月に「進化する教室イノベーション事業」に係る電子黒板を活用した公開授業を実施、11月の平日に本校保護者対象、休日に中学生対象に授業公開を実施し、大学関係者、学校支援協議会員にも案内した。いずれもICTを活用した主体的・協働的な授業が展開された。 ② ホームページの更新に努め、学校からの連絡や生徒の活動を広報した。 ③ 中学生とその保護者対象の説明会を9月と10月に開催し、参加者は787名であった。	(所見) 授業公開については新型コロナウイルス感染症の感染対策を行い実施した。城東祭も非公開とした近隣校が多い中、保護者のみには好評であった。中学生及びその保護者対象の学校説明会は8月の体験入学が中止となったことも重なり、2回で787名の参加があった。来年度より全県一区の募集となることから遠隔の中学校からの参加も増えた。			
学校関係者の意見						
指標を達成できています。コロナ禍の中でも行事を開催し、ホームページもすぐに更新できています。全県一区校となり、ますます注目されていますので引き続き情報発信をお願いします。						

12 教職員の資質向上

重点目標	評価指標（と活動計画）		評価			次年度への課題と今後の改善方策
	評価指標		評価指標による達成度	評定	総合評価	
①校務運営体制の効率化と充実を図る。 ②教職員のコンプライアンス意識の高揚を図る。 ③校内外の研修を通じて指導力の向上を図る	① 教員の職務の満足度 90%以上 ② 常にコンプライアンス意識を持って勤務している割合 100% ③ 校外での授業力向上に向けた研修参加人数 5名以上	① 98.3% ② 94.8% ③ 「ネクストリーダー育成プログラム」「進化する教室イノベーション授業」「教育課程研究指定校事業」等にオンラインで参加。15名以上	A B A	(評定) B	コンプライアンスについてのアンケートでは100%を目指し、全員が「よく当てはまる」になるように個々の意識を更に向上させる必要がある。 新しい生活様式の中でオンライン研修が一般化すると考えられ、校内での3密を避けた研修場所の確保、Web接続回線の安定等、多くの教員が研修に参加できるよう環境整備に努める。	
	① 校内文書情報の共有化を図り効率的な校務	① 学習系端末での教材データの共	(所見) 教科の性質上、教材データ共有に対する適応差はあ			

	<p>事務処理を構築する。</p> <p>② 職員全体でのコンプライアンス研修会を3回以上実施し、コンプライアンス意識の向上を図る。</p> <p>③ ・計画訪問等も含め、教員研修・研究授業を計画的に配置し、各教科1回以上ICTを用いた研究授業を行う。 ・外部機関等の授業力向上研修に参加する。</p>	<p>有や校内文書共有のための掲示板の活用を進めた。</p> <p>② 職員会議や職員朝礼の機会を捉えて19回実施し、コンプライアンス意識の向上を図った。</p> <p>③ E d T e c hを活用した学びの場構築事業での研究授業では、各教科でICTを活用した研究授業を行ったほか、計画訪問等においても実施した。コロナ禍によるオンライン研修が増え、外部の研修参加に結びついている。</p>	<p>るが、学習課題の配信等教科に関わらない部分では連携を進める必要がある。</p> <p>時宜を捉えたコンプライアンス研修を実施できたが、更に研修内容を自分事とするため意識の向上を図る必要がある。</p> <p>オンライン研修場所やW i F i環境等、環境整備に努める必要がある。</p>	<p>学校関係者の意見</p> <p>教材研究、コンプライアンスへの取組等について他校の事例を取り入れるなどよりよい学校づくりに邁進してください。コンプライアンス意識(100%)をもって取組をお願いします。</p>
--	---	--	--	---